

鎌倉殿の13人～それぞれの最期～

【建久10年／正治元年（1199）】

- 01月13日 源頼朝が死去する。
- 04月12日 13人の合議制が始まる。

【正治2年（1200）】

- 01月20日 梶原景時一族が襲撃されて滅亡する。
- 01月23日 三浦義澄が病死する。
- 04月26日 安達盛長が病死する。

【建仁3年（1203）】

- 06月23日 八田知家が阿野全成を誅殺する。
- 09月02日 北条時政が比企能員を誅殺する。
- 09月07日 源実朝が征夷大将軍に就任する。

【建仁4年／元久元年（1204）】

- 07月18日 伊豆国修善寺にて源頼朝が死去する。

【元久2年（1205）】

- 06月22日 二俣川の戦い（畠山重忠戦死）。
- 23日 稲毛重成が殺害される。
- 閏7月19日 北条時政・牧の方が鎌倉追放。

【承元2年（1208）】

- 12月18日 京都にて中原親能が病死する。

【建暦3年（1213）】

- 05月03日 和田合戦（和田義盛戦死）。

【建保3年（1215）】

- 01月06日 伊豆にて北条時政が病死する。

【建保7年／承久元年（1219）】

- 01月27日 鶴岡八幡宮にて源実朝が暗殺される。

【承久3年（1221）】

- 06月 承久の乱（後鳥羽上皇挙兵）鎮圧。
- 08月09日 三善康信が病死する。

【貞応3年／元仁元年（1224）】

- 06月13日 北条義時が病死する。

【元仁2年／嘉禄元年（1225）】

- 06月10日 大江広元が病死する。
- 07月11日 北条政子が病死する。

※13人には下線を引いた。

※13人のうち足立遠元・八田知家・二階堂行政は没年不詳。

お問い合わせは・・・川崎市公文書館 まで
〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1
電話 044-733-3933 FAX. 044-733-2400
E-mail 17koubun@city.kawasaki.jp
ホームページ「川崎市公文書館」で検索



特設コーナー「中世川崎における鎌倉武士の群像～稲毛三郎重成伝～」



伝稲毛重成墓（多摩区廣福寺）

平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、当時川崎市内にあった稲毛荘を本拠地として活躍した**稲毛三郎重成**という武士がいました。

* * * * *

2022年NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送により注目されている鎌倉時代について、中世の川崎市域と関連のある武士の活動を中心に紹介します。

鎌倉時代における川崎市域史へ注目して頂く機会になればと思います。

令和4(2022)年7月5日
川崎市公文書館

1. 鎌倉時代～「天下草創」から北条氏の時代へ～

勝者だった者が敗者となり、敗者だった者が勝者となる。

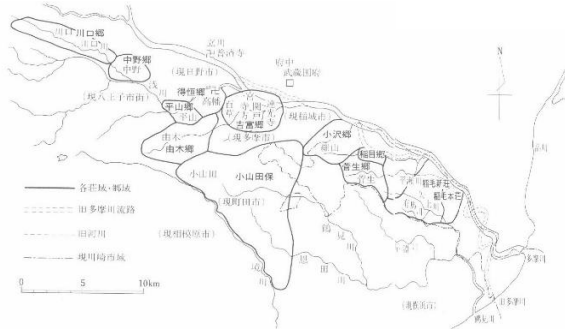
平清盛を中心とする平氏の時代は、木曾義仲や源頼朝らの挙兵で雲行きが怪しくなった。木曾義仲の軍勢によって京都を追われた平氏は、やがて源頼朝が派遣した源義経の軍勢によって瓦解した。

伊豆の流人であった敗者・源頼朝が「天下草創」を担う「勝者」に転身したのである。しかし、草創者・源頼朝の死後、鎌倉では御家人たちによる熾烈な内訌が勃発する。頼朝のもとで活躍した者たちが次々と斃れ、最終的には北条氏を中心とする政治体制が確立されることになる。

2. 鎌倉時代の川崎市域～「河崎庄」の登場～

現在の川崎市域に相当する土地のほとんどは武蔵国橋樹郡に属していた。

平安時代後期に河崎冠者基家（秩父平氏出身）がこの辺りの土地を開拓したと伝わる。（『秩父系図』より）「河崎」という地名が歴史上に登場したのはこの時である。



<川崎市編『川崎市史 通史編1』より 市域の荘・郷>

3. 稲毛重成伝Ⅰ～源頼朝へ参陣～

稲毛重成（小山田重成）の生年は不詳である。武蔵国における大蔵合戦で勢力を伸ばし、保元・平治の乱を経て、平氏の郎党になった。

治承4年（1180）に源頼朝が挙兵した際には、当初は平氏方として敵対した。しかし、同じ秩父一族である畠山重忠らと共に源頼朝方へ味方することになる。石橋山の戦いで大敗した頼朝だったが、房総半島に逃れて再挙を図り、石橋山の戦いからわずか2ヶ月で鎌倉入りするまでに勢力が拡大していた。稲毛や畠山も、こうした「東国の時流」に乗ったと言えるであろう。

4. 稲毛重成伝Ⅱ

～源頼朝の随兵から有力御家人へ～

養和元年（1181）4月20日、稲毛重成は源頼朝による本領安堵が行われた際に所領の偽装申告で頼朝本人から怒りを受けた（『吾妻鏡』）。

しかし、その後も頼朝の側近くに仕え、数々の合戦（例えば、一の谷の戦い）に参加するなどして活躍した。

また、北条時政の娘（政子の妹）を妻に迎えており、頼朝とは義理の兄弟でもあった。

このように、稲毛重成は自身の手による功績と共に「鎌倉殿」の親類としての立場もあり、有力御家人に数えられる人物となったのである。

5. 稲毛重成伝Ⅲ～相模川橋供養と源頼朝の死～

建久6年（1195）、源頼朝の上洛に従った稲毛重成は、帰路で妻の危篤を知らされる。頼朝から駿馬を下賜されて帰路を急いだものの、妻は他界した。

建久9年（1198）、亡き妻の追善供養のために相模川に橋を築造する。その橋供養に源頼朝も出席したが、頼朝はその帰路に落馬し、翌年の建久10年（1199）1月13日に死去した。

「鎌倉殿」は源頼家に継承されたが、鎌倉幕府は再び混乱していく。梶原景時・阿野全成・比企能員などが滅亡し、源頼家も「鎌倉殿」の地位を追われ、頼家は伊豆国の修善寺で死去する。隠遁していた稲毛重成が再び鎌倉に戻ってくるのは、この頃である。

6. 稲毛重成伝Ⅳ～滅亡と北条氏の覇権確立～

元久2年（1205）4月、舅である北条時政の招きにより、稲毛重成は久方ぶりに鎌倉を訪れた。2か月後の6月22日、同じ秩父一族である畠山重忠が謀反の疑いをかけられ、二俣川の戦いで滅亡した。この出来事は稲毛重成の運命を決める。戦後、畠山重忠の謀反の嫌疑は稲毛重成の謀略とされ、今度は稲毛重成が一族と共に殺害された。畠山重忠・稲毛重成の滅亡は、北条時政・牧の方（時政の妻）が源実朝を排斥して新将軍を擁立しようとしていた中で起こった出来事である。しかし、時政・牧の方も稲毛重成の滅亡後に鎌倉を追放されることになる。

有力御家人が次々と追放・滅亡していくなかで、時政失脚にも拘わらず、北条政子や北条義時などの北条氏一門が覇権を確立し、鎌倉幕府の基盤固めに尽力していくことになる。